

愛知県地震概況

令和7年（2025年）12月

この資料は速報であり、後の調査で修正することがあります。

○概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況

12月に愛知県内で震度1以上の揺れを観測した地震が1回発生しました。

2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震

今期間、特に目立った地震活動はありませんでした。

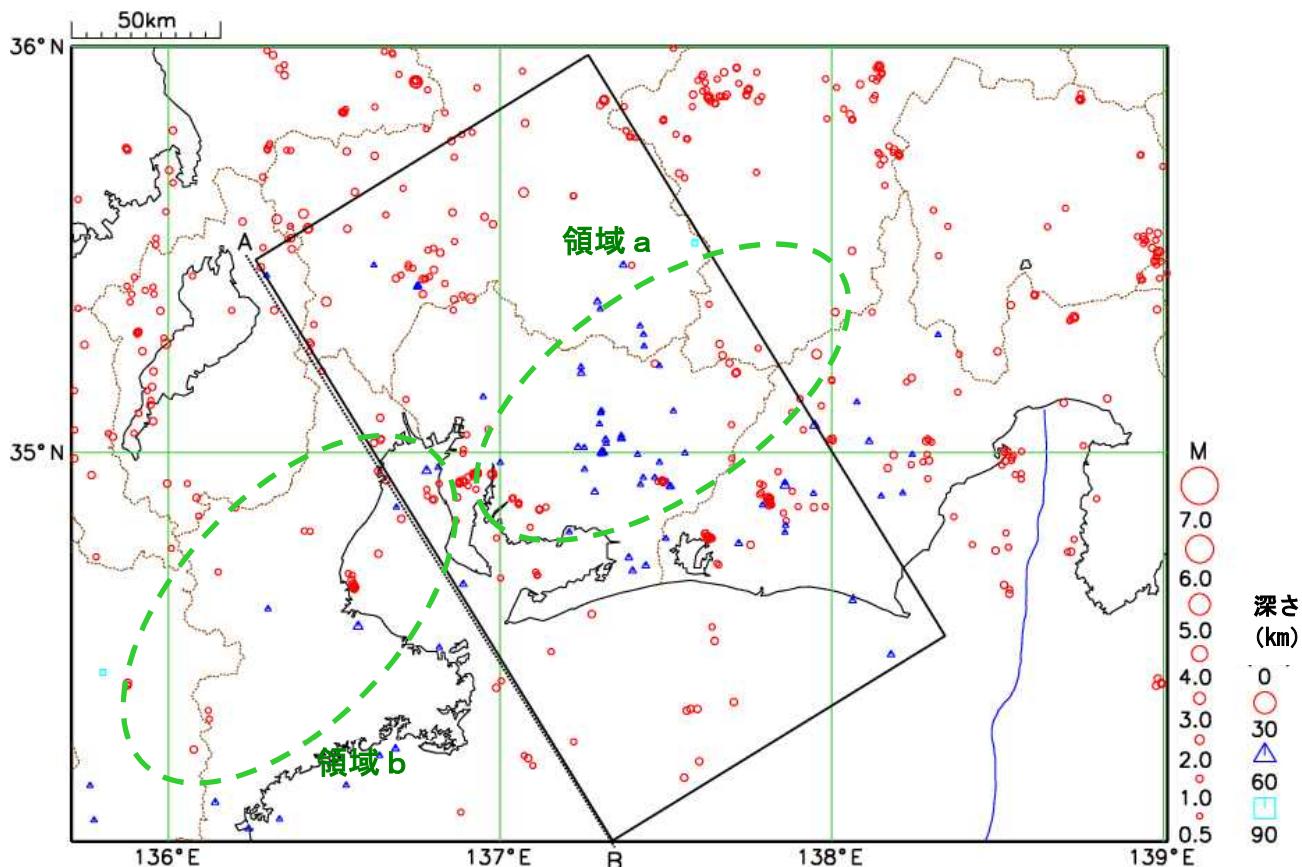
3. 深部低周波地震（微動）の活動状況

- 東海（領域a）

11月30日～12月1日

- 紀伊半島北部（領域b）

8日～9日



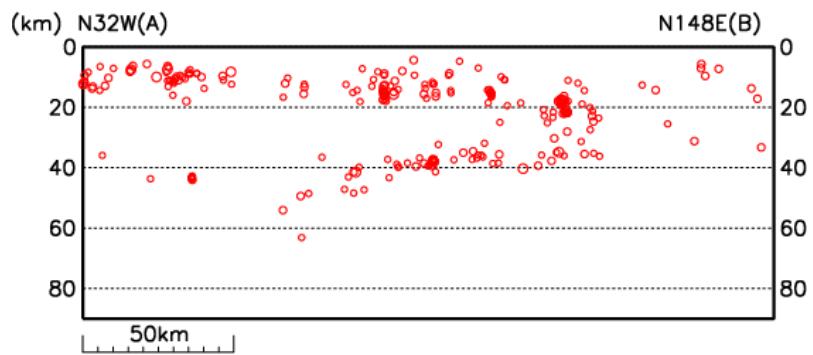
震央分布図（2025年12月1日～31日 深さ0～90km $M \geq 0.5$ ）



深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。

（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A - Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。
深さ 25km 程度までの深い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度1以上を観測した地震

青森県東方沖の地震（1頁目震央分布図の範囲外）

8日23時15分青森県東方沖で発生したM7.5の地震（深さ54km）により、青森県で震度6強を観測したほか、北海道から兵庫県にかけて、震度6弱～震度1を観測しました（図1）。愛知県では震度1を観測しました（図2）。

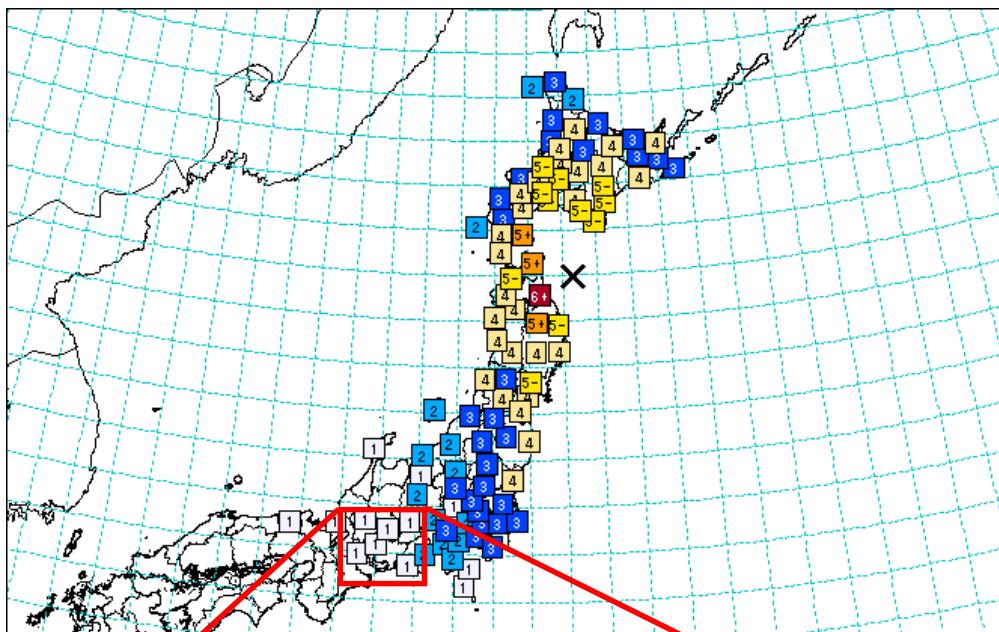


図1 8日23時15分 M7.5 震度分布図
(地域別、×：震央)

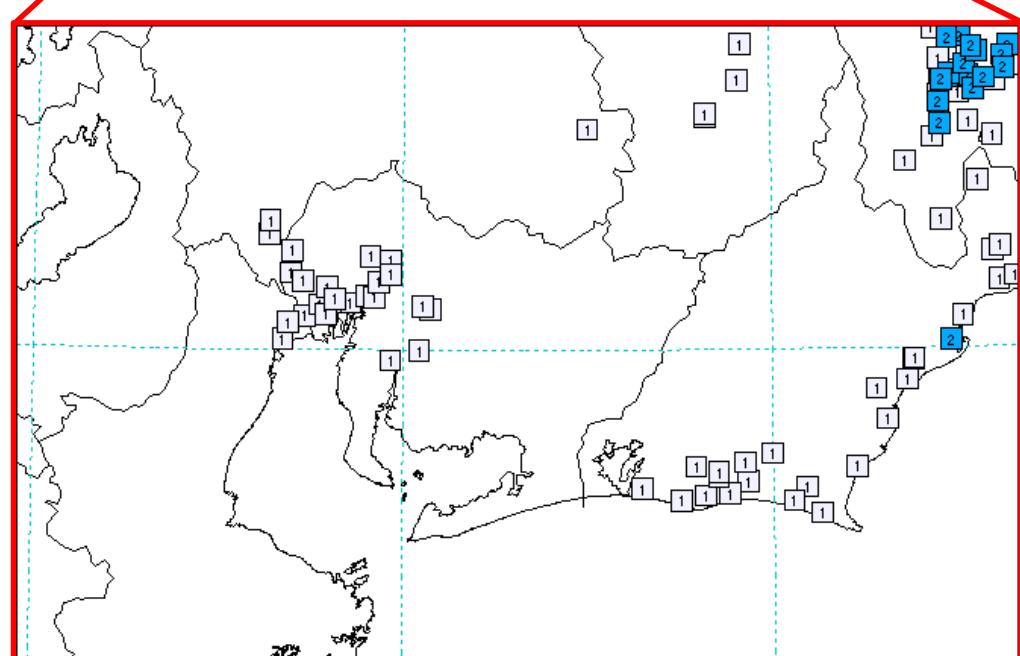


図2 8日23時15分 M7.5 観測点別震度分布図（赤枠拡大図）

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2025 年 12 月 08 日 23 時 15 分	青森県東方沖	40° 58.0' N	142° 17.2' E	54km	M7.5
愛知県 震度 1 : 名古屋千種区日和町、名古屋北区萩野通＊、名古屋昭和区阿由知通＊					
名古屋瑞穂区塩入町＊、名古屋熱田区一番＊、名古屋港区春田野＊					
名古屋港区善進本町＊、名古屋守山区西新＊、知立市弘法＊、東郷町春木＊					
蟹江町蟹江本町＊、飛島村竹之郷＊、東浦町緒川＊、愛西市稻葉町、愛西市石田町＊					
愛西市江西町＊、弥富市神戸＊、愛知みよし市三好町＊					

（注 ＊印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随时ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

北海道・三陸沖後発地震注意情報

大規模地震の発生可能性が平常より相対的に高まっている際に発表！

12月8日23時15分青森県東方沖で発生した地震は、後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たしているとして、気象庁は、12月9日02時00分に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表しました。

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、突発的に地震が発生した場合を想定し、平時から事前の防災対策を徹底し、巨大地震に備えることが重要です。また、モーメントマグニチュード（Mw）7クラスの地震が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きなMw8クラス以上の大規模な地震が続いて発生する事例なども確認されています。そこで実際に後発地震が発生する確率は低い（※）ものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、中央防災会議において、後発地震への注意を促す情報の発信が必要である旨が提言されました。この提言を受け、気象庁では令和4年12月16日から運用しているものです。

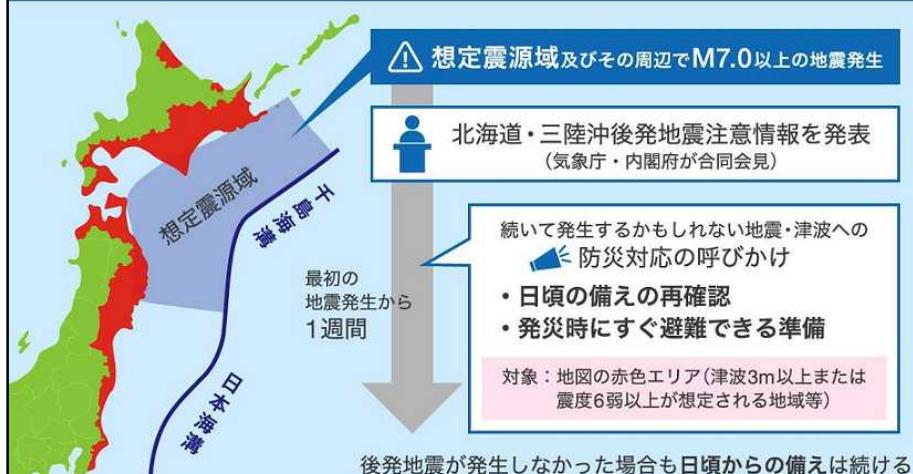
本情報は、後発地震の発生時期や場所・規模を確度高く予想する情報ではなく、ましてや発生を予知する情報ではないことに留意してください。

※過去100年程度の間（1904年～2017年）に世界中で発生したMw7.0以上の地震は1477事例であり、そのうち、地震発生後7日以内にMw8クラス以上（Mw7.8以上）の地震が発生したのは17事例

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは

- ・日本海溝・千島海溝沿いの後発地震（※発生確率は1/100程度）に注意を促すため最初の地震発生後に発表
- ・事前避難を呼びかけるものではない

発表の流れ



北海道・三陸沖後発地震注意情報の詳細については、以下の気象庁 HP をご覧ください。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nceq/info_guide.html

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の詳細については、以下の気象庁 HP をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nceq/index.html>